



発行 御首神社社務所

## 御挨拶

拝啓 師走の候、皆様方におかれましては愈々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

十月二十日、皇后陛下におかれましては、八十四歳のお誕生日をお迎えになられました。誕生日のお言葉の中で「五月からは皇太子が、陛下のこれまでと変わらず、心を込めてお役を果たしていくことを確信しています。(中略)陛下の御譲位後は、陛下の御健康をお見守りしつつ御一緒に穏やかな日々を過ごしていかれればと願っております。」と述べられました。また、「手付かずになつていた本を、これからは一冊ずつ時間をかけ読めるのではないかと楽しみにしています。」とユーモアを交えお語りになりました。陛下の御譲位により、両陛下には穏やかな日々が訪れますことを心よりお祈り申し上げます。

去る九月、日本列島を縦断するように吹き荒れた台風二十一号と二十四号により、当社境内の木々が折れ、あるいは根こそぎ倒れるなどの被害を受けましたが、その全てが建物を避けるように倒れたことは不幸中の幸いであり、ひとえに大神様の御陰に依るものと、感謝いたす次第であります。しかしながら、各地には大きな爪痕を残しており、被害に遭われました皆様方には心よりお見舞い申し上げますと共に、一日も早い復旧をお祈り致します。

さて、今号のみくびだより表紙の写真は、本殿の鈴緒でございますが、この度当神社崇敬会よりご奉納を賜りました。また、稲荷神社拝殿幕・鈴緒を敬神婦人会よりご奉納賜りました。(三頁参照)この場を借りまして、ご報告させて頂きますと共に、厚く御礼申し上げます。

最後になりましたが、当社では迎春にあたり万全の準備を進めております。皆様方には、御首の大神様の御神徳を漏れなく拝受されまして、清々しい新年をお迎え頂きます事をお祈り申し上げます。御挨拶とさせて頂きます。

宮司 二浦 篤

## 祭事報告

## ▼西宮神社（相殿社）例祭

七月十七日

「えべっさん」の愛称で親しまれている、兵庫県西宮市の西宮神社より御分霊を賜り、本殿に向かいます西側にお祀りされております西宮神社の例祭を滞りなく齋行致しました。

## ▼末廣稻荷神社（境内社）例祭

八月五日

境内の東に連なる朱の鳥居の奥に鎮まります末廣稻荷神社。本年も、氏子地区の子ども等による奉納行灯が参道に並び、賑やかながらも厳粛に例祭をお仕え致しました。



## ▼夏越大祓

八月五日



末廣稻荷神社例祭後、境内の遥拝所前にて執り行われました。神職による大祓詞奏上の後、祓つ物（はらえつもの）を八つに取り裂き、皆様の罪・穢が託された人形（ひとがた）を忌火にてお焚き上げ致しました。また、当日は多くの方が参拝に見え、茅の輪くぐりは夕方まで続きました。

## ▼長寿祈願祭

九月十五日

旧敬老の日に当たる十五日に、宇留生地区の長寿会連合会の皆様をお招きして、益々のご健康と長寿をご祈念致しました。

## ▼神明神社（境内社）例祭

十月十七日

本殿の北西に鎮座し、天照大神をお祀りしております。例祭当日の早朝より御社殿の清掃を行い、定刻通り齋行致しました。

## ▼崇敬会大祭

十一月三日

一年に一度行われる、当社崇敬会のための大祭です。会員の皆様の健康・隆昌繁栄をご祈願し、恙無くお仕え致しました。

崇敬会会員の皆様には、この大祭を始め伊勢神宮への参拝研修旅行（日帰り）など開催されます。詳しくは七頁の入会のご案内をご覧頂き、是非ご入会下さい。



## ▼新嘗祭

十一月二十三日



秋の稔りに感謝し、今年の初物を神様に食して頂く神事で、祈年祭・例大祭に並ぶ大切な意味のあるお祭りです。

古くより、十一月二十三日は、宮中にて天皇陛下が民を代表し、神々に秋の収穫への感謝の誠を捧げる重義（新嘗祭）を行う大切な日であることは言うまでもなく、現在も祝祭日として定められています。

本年も、境内の「神饌田」にて稔りました初穂をご神前に奉りました。この初穂は、ご祈祷をお受けになられました方へのお下がりとしてお頒ちしております。

▼七五三参り

十一月中

七五三参りは、徳川綱吉が長男の健康を願ひ氏神様へ参つた事が由来とされており、その日が十一月十五日であつた事は広く知られております。

十月も半ばを過ぎますと、七五三参りの姿が見え始め、十一月に入るとその姿は日毎に増し、多くのご家族が訪れました。

中でも、十五日近くの土曜・日曜日ともなりますと、何組ものご家族が参拝になり、境内特設のスマートボールに興じる子供たちの元気な声、そして参道脇の七五三看板前での参拝記念撮影も順番待ちがあつたりと、境内は終日賑わいを見せておりました。

また着慣れない袴や着物、そして足袋に草履と艶やかながらも辿々しく歩く姿と、それを見守るご家族の暖かい眼差しは、とても心温まる光景でございました。

諸祭典(抜粋)

▼月次祭 毎月一日 二十日

神職への質問Q&A

**問** 以前ご祈禱を受けた時に、紅白の御幣串を頂きましたが、今回のご祈禱のお下がりには御幣串は付いておらず、代わりに小さな御札(?)が入っていました。この御札はどのようなにしたら良いのでしょうか。

**答** 先般はようこそご参拝くださいました。お尋ねの件ですが、ご祈禱のお下がり小さな御札は、「祈禱神璽(きとうしんじ)」と申します。これはご祈禱を受けた証であり、以前にお渡ししていた紅白串に代わる札です。紅白串の時と同様に神棚へお祀り下さい。尚、紅白串は「月が変りましたらご返納下さい。」とご案内致しておりましたが、この祈禱神璽は一年間お祀りされた後、神社へご返納下さい。

また、期間を有するご祈禱をお申込みの方には、翌月以降の月初めには、これまで同様に紅白串をお送りしておりますので、従来通りにお祀り下さい。

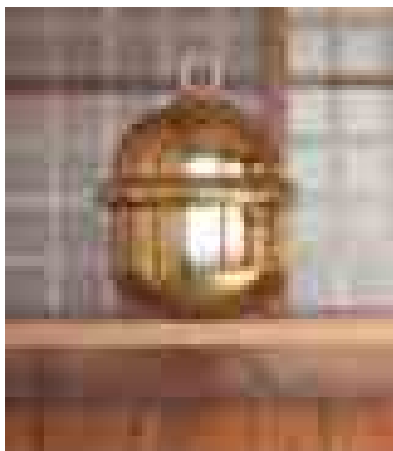
ご奉納頂きました

▼崇敬会よりご奉納

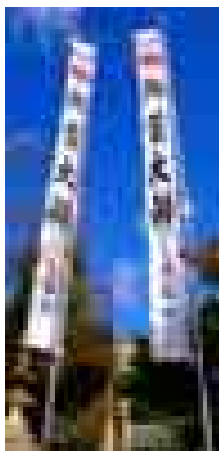
一、拝殿用鈴緒



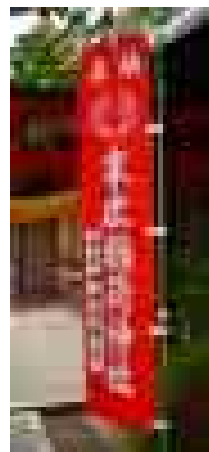
一、拝殿用本坪鈴



一、御首神社鳥居前特大幟



一、末廣稻荷神社幟

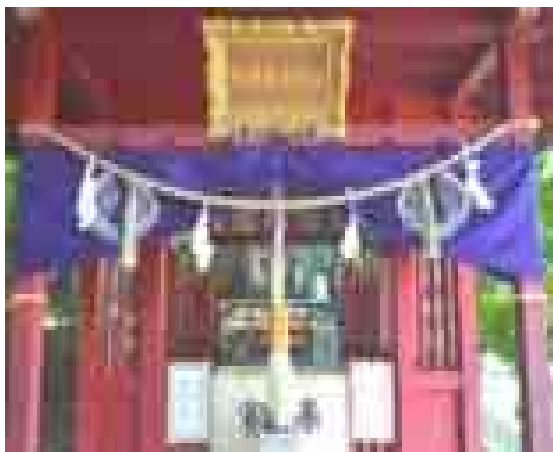


▼敬神婦人会よりご奉納

一、稻荷神社用鈴緒



一、稻荷神社用拝殿幕



ご奉納ありがとうございます。

# 神社について

東海道を東に旅する時、その車窓から望む富士の山に思わず頭を垂れ、拝んでしまう衝動に駆られる事があります。まさに霊峰富士と言った所でしょう。富士山に限らず、白山や立山等、夏でも山頂に雪を湛えた神々しい姿に格別の敬意の念を抱きます。



これら山々を崇拝する信仰（富士信仰、白山信仰など）を総称して「山岳信仰」と呼びます。山岳信仰は、最も古くからの信仰の一つで有ると考えられております。殊に、神様の宿るとされる処（特に神聖な森や山）を「神奈備」と

# 『山岳信仰』

呼びます。

日本人は古来より、山は神が宿ったり降臨したりする場所、あるいは祖霊の存する場所などとして神聖視してきました。その中でも、日々の生活と山との密接な関わりにより、山岳信仰が広まっていったと考えられます。

私達の先祖は、狩猟や採取を主として生活し、日々の糧を与えてくれる山々を崇め称えてきました。それと同時に山々の稜線は天と地の境であり、隣村や隣国との境でもありました。そこから、異世界との境界線、あの世とこの世の境界線であるとの信仰が生まれてきたと言います。また亡くなった祖先たちは高い山に宿り、現世に生きる子孫たちに恵みを与えてくれると言う考えも生まれました。やがて時代が進み農作業が主体の村が形成されてくると、山は農業に欠かせない水の源としても崇敬の対象となつてゆきました。

また、山岳信仰が広まる経緯には修験道との関係も深く、奥深い山々を修行の場として多くの修験

者達が山から山を渡り歩きました。その修行の山々は霊峰として尊崇されるようになってゆきました。修験者は修行の過程で村々へ立ち寄っては布教を行い、その中で

「山の神たちは、春に山から下りて田畑の神となり秋の収穫が終わると再び山に戻り山の神となる」と言つた事も教え伝えていたようです。稲作中心の人々にとつて生活と関わりのあるその教えは、受け入れ易くより信仰が広まったと思われまふ。

崇拜の型として、山の麓や山中または山頂などに神社や祠などが建立されている事が多く見られますが、奈良県の大神神社（おおみわじんじや）では三輪山そのものをご神体として建立されており、現在でも本殿が無い特殊な造りをしており、山自体を拝んできた古い信仰の形を今に残している神社であります。

山岳信仰に見られる自然崇拜の形は、古来より日本人が自然と共に生きてきた証であります。改めて自然と共に在る事を思い出し、感謝し、日々の生活を送ることが、自身をより豊かにしてくれるような気が致します。

# 年祝いの皆さん

古稀	70歳	昭和 25年生
喜寿	77歳	昭和 18年生
傘寿	80歳	昭和 15年生
米寿	88歳	昭和 7年生
卒寿	90歳	昭和 5年生
白寿	99歳	大正 10年生

ご祈禱をお受けになり  
健康な毎日をお過ごしませう

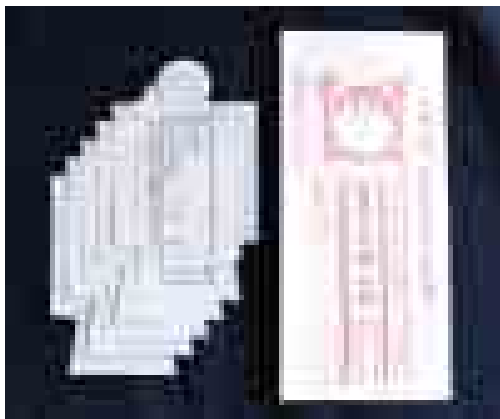
昭和	13年生
	22年生
	31年生
	40年生
	49年生
平成	58年生
	4年生
	13年生
	22年生

# 八方ふさがりの皆さん

# 祭事案内

▼年越大祓

十二月三十日



夏越大祓とは異なり、茅の輪くぐりはございませんが、神職全員が大祓詞を奏上致し、皆様が罪穢れを託されました人形をお焚き上げ致します。

人形は社務所などにも設置してございます。皆様ぜひお申込み下さい。

▼元旦祭

一月一日

一年で一番初めの祭典です。午前零時より厳肅に齋行されます。

▼左義長

一月十五日

一年間ご守護戴きましたご神札や御守り又注連縄・お正月の注連飾りを忌み火にて焚き上げます。

▼浄火祭

二月三日

金幣串や祈禱神璽・紅白串をはじめ、皆様が奉納された絵馬や帽子を忌み火にて焚き上げます。

神事終了後より午前中に限り、ご自宅で不要となりました帽子の炊き上げを致します。詳しくはお問い合わせ下さい。

▼例大祭

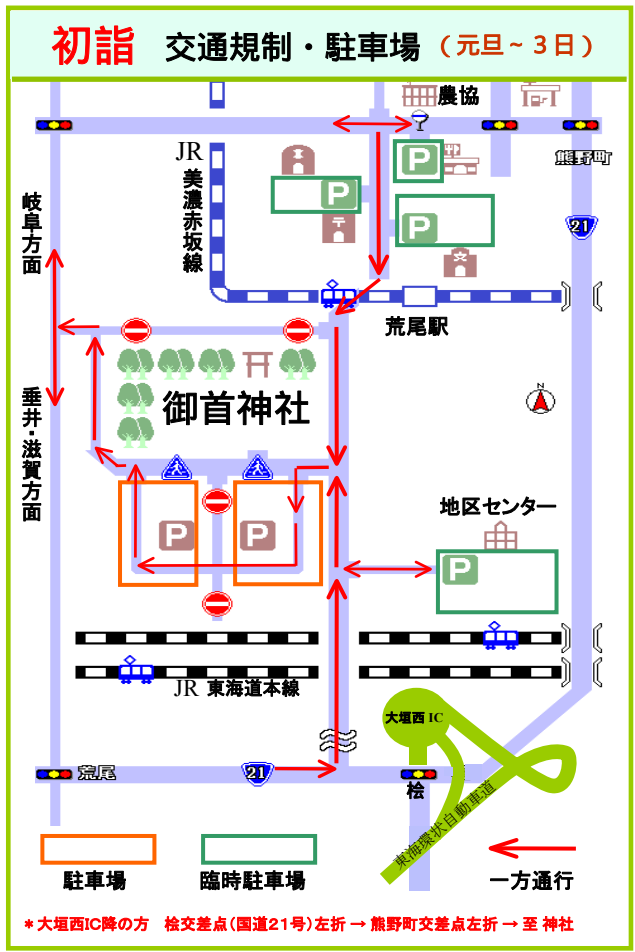
四月二日

当神社で一番大きなお祭りです。神事は舞楽の奉納も有り、盛大に行われます。

また当日は、子供神輿や境内の特設舞台にて催し物が行われ、賑わいを見せます。

## 諸祭典(抜粋)

- ▼月次祭
- ▼祈年祭
- ▼お田植え祭
- ▼南宮神社例祭
- ▼農休祭
- ▼鍛山神社例祭



\* 大垣西IC降の方 検交差点(国道21号)左折→熊野町交差点左折→至神社

## 崇敬会入会のご案内

本会は、「古来首より上の諸病を憂うる者此の社に願えば靈験あらたか：：」と伝わりし御首神社の御神徳に感謝し、ご家族の諸病平癒・無病息災・家内安全生業繁栄並びに子孫繁栄を願う崇敬者の会として設立されました。

入会を望まれます方は、社務所までご一報下さい。早々に案内資料をご用意させて頂き戴きます。

### 会員の特典 (抜粋)

- ・ 入会報告祭の実施
- ・ 誕生特別祈禱の実施
- ・ 及び祈禱神符の授与
- ・ 主要祭典のご案内
- ・ 昇殿参拝

### 会員の種類と年会費

- ・ 個人 三千円
- ・ 家族 五千円
- ・ 特別 一万円
- ・ 法人 二万円
- ・ 名誉 三万円

〈お問い合わせ先〉  
神社社務所まで  
〇五八四一九一―三七〇〇

新年 授与品・縁起物



祈願絵馬  
初穂料五〇〇円



さくら鈴  
初穂料五〇〇円



干支土鈴  
初穂料八〇〇円

他にも授与品・縁起物がございます

新しいおみくじのご案内

こども  
おみくじ

お子様向けの可愛らしい  
おみくじです。

初穂料 二〇〇円



女神様みくじ

日本神話に登場する女神様の物語から、今のあなたに大切なことが示されるおみくじです。

おみくじと一緒に、それぞれの女神様にちなんだ木札が入っています。

初穂料 三〇〇円



平成三十一年

初祈祷のご案内



初祈祷は、元旦祭  
終了後（元旦午前零  
時半頃）よりお仕え  
いたしております。

毎年、多数の皆様が我先にと御  
祈禱（家内安全・商売繁盛・各種  
受験合格・病氣平癒祈願など）を  
お受けになられております。  
輝かしい年の初めに、ご家族お  
揃いでお参り下さい。

正月御供  
鏡餅料 受付中です

正月御供（一月初旬迄 受付）  
・酒類・お餅・米・野菜・果物  
・菓子など

鏡餅料（十二月末迄 受付）  
・正月三日間、鏡餅を御神前に  
お供えいたしま  
す。千円以上の  
お申込となって  
おります。



\*お下がりが授与されます。  
\*郵送・書留等による申込受付  
中。詳細は社務所まで。

平成31年 厄年表（数え歳）

	歳	前厄	本厄	後厄
男	61歳	昭和35年生	昭和34年生	昭和33年生
	42歳	昭和54年生	昭和53年生	昭和52年生
	25歳	平成8年生	平成7年生	平成6年生

	歳	前厄	本厄	後厄
女	37歳	昭和59年生	昭和58年生	昭和57年生
	33歳	昭和63年生	昭和62年生	昭和61年生
	19歳	平成14年生	平成13年生	平成12年生

編集後記

今号は平成最後の発行となります。  
次号、新元号で最初のみくびだより  
でお会いしましょう。

御首神社社務所

岐阜県大垣市荒尾町一二八三の一  
Eメール [stamusyo@mikubi.or.jp](mailto:stamusyo@mikubi.or.jp)  
TEL(〇五八四)九一―三七〇〇